

病院の実力「肺がん」
医療機関別2019年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	手術 (件)	うち 区域切除 (件)	放射線 治療 (根治的照射 人)	薬物 療法 (人)
千葉				
国立がん研究センター東	406	21	149	424
千葉大	209	42	61	119
県がんセンター	154	22	26	83
亀田総合	115	18	40	32
千葉労災	110	30	—	—
船橋市立医療センター	101	8	21	104
国保旭中央	98	4	55	121
東京女子医大八千代医療センター	93	8	0	42
順天堂大浦安	89	5	32	—
新松戸中央総合	76	11	0	10
慈恵医大柏	72	2	0	15
国保君津中央	71	11	23	153
国・千葉医療センター	61	3	7	67
日本医大千葉北総	58	6	15	57
東邦大佐倉	56	1	29	156
新東京	54	16	0	0
東京歯科大市川総合	52	3	13	46
成田赤十字	51	2	3	107
千葉西総合	27	3	0	42
おおたかの森	21	0	0	8
聖隷佐倉市民	20	4	19	26
国際医療福祉大市川	20	3	0	24
松戸市立総合医療センター	18	1	16	99
千葉徳洲会	0	0	2	0
市立柏	0	0	0	8
茨城				
筑波大	150	8	36	142
県立中央	139	12	27	88
筑波メディカルセンター	108	3	49	92
日立総合	104	8	29	62
土浦協同	101	4	27	—
国・水戸医療センター	68	9	10	74
東京医大茨城医療センター	58	8	13	17
友愛記念	22	3	7	26
水戸赤十字	0	0	2	13
埼玉				
埼玉医大国際医療センター	229	6	71	219
自治医大さいたま医療センター	225	42	14	117
県立がんセンター	212	30	79	273
春日部市立医療センター	146	14	54	324
県立循環器・呼吸器病センター	146	10	26	144
さいたま赤十字	142	20	142	265
埼玉医大総合医療センター	133	13	45	227
独協医大埼玉医療センター	113	4	42	121
新座志木中央総合	49	7	14	25
戸田中央総合	42	1	23	67
上尾中央総合	26	4	0	12
深谷赤十字	23	2	8	13
TMGあさか医療センター	10	7	0	21
埼玉協同	7	1	0	9
さいたま市民医療センター	0	0	0	20

「国」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

病院の実力

146

肺がん

早期で「定位照射」効果

今回は、肺がんを取り上げる。一覧表には、手術や放射線治療(根治的照射)、薬物療法などの2019年の治療実績を掲載した。肺は胸の左右にあり、右は

三つ、左は二つの肺葉に分かれる。手術は通常、がんがある肺葉ごと切除する。ごく早期でがんが小さい場合、さらに範囲を狭めた「区域切除」も選択肢になる。肺の機能低下を抑えるのが狙いだが、再発や転移のリスクもある。高齢や持病で手術が難しい

時は、放射線治療で根治を目指すこともある。早期であれば、がんだけを狙い撃ちする「定位照射」が効果を上げている。

がんが進行して骨や脳などに転移し、手術で取り切れない時には、薬物療法が中心となる。がん細胞を直接攻撃する

従来の抗がん剤に加え、近年は分子標的薬や免疫治療薬などが続々と登場している。がん細胞の遺伝子変異に着目した分子標的薬は、がん特有の異常なたんぱく質の増殖を止め、進行を抑える効果が期待できる。

免疫機能は誰にも備わって

いるが、がん細胞には、免疫細胞の攻撃を逃れる仕組みがある。免疫治療薬は、この仕組みを機能させず、免疫本来の力を発揮できるようにする働きがある。

こうした薬を組み合わせることで、より高い効果が得られるなど、治療の選択肢は増えている。

全国の調査結果は15日の「安心的设计」に掲載しました。